

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 (最終))

和庄中学校区 校番 14 学校名 呉市立 本通小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標, 指標の設定の適切さ	A	・課題からの目標設定, 目安とする基準はわかりやすい。
目標達成のための方策の適切さ	A	・学校生活に根ざした具体的な実施方法の提示がなされている。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・校内外からの視点, 教職員, 児童の視点, 上・下半期の対比等, 多方面から課題の分析がなされている。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・気の緩むことのないよう手間をかけ, 継続・維持していく創意・工夫が見られる。 ・掃除・返事・靴揃えについては, 肯定的な声かけや肯定的な評価を行う機会の増加という改善策が, 児童が主体的に取り組めるという点で適切であると思う。
その他		・全体で共通認識を持ちつつ, 教職員それぞれの立場・個性を生かして取り組んでおられる。 ・こども家庭庁のスローガンは「こどもまんなか」で, こども若者の意見の政策反映に向けたガイドラインも作られています。ますます, 自分の思いを発したり表現したりすることが必要です。こどもが「自分は愛されている」と感じ, 適切な語いを使用する言語活動を充実させることで, 楽しい学校生活を送ってほしいと願っています。 ・子供の行動を褒める→子供が喜ぶ→次の正しい行動につながる。というサイクルを作っていくために, 先生方と上級生で, みんなの良いところを見つけていくような学校運営ができたらと思います。

※ 評価は, A(とても適切), B(概ね適切), C(あまり適切でない), D(まったく適切でない), N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策		・引き続き, 全体で共通認識をもち, 組織的かつ計画的に取り組を進めていく。課題の分析後, 具体的な改善策・取組を全教職員が意識して指導することが大切である。 ・教師の肯定的な声かけや肯定的な評価を行うことで, 児童の自己肯定感を高め, 主体性を引き出していく。 ・「和庄中学校区授業モデル」を意識した授業づくりを進めていくことで, 授業改善の日常化を図る。 ・総合的な学習の時間において, 探究的な学習過程となるようファシリテートことで, さらに防災教育の深化を図る。
--------------------	--	--